

## 15-b 心理学の立場からの報告

文教大学人間科学科

岡 堂 哲 雄

現在の青少年が直面している心理面の諸問題には、個人的な問題、家族関係上の問題、学校や職場での人間関係上の問題がある。

### 1. 個人的な問題

- 1) 身体成長にともなう容姿体形の急変に対応することが出来ないケース（例、短軀不安）
- 2) 自分の性質についての悩み（例、引込み思案）
- 3) 性的発達についての知識の歪み

### 2. 家族関係上の問題

- 1) 依存と自立の葛藤（親ばなれできない青年）
- 2) 子離れできない親の問題（過保護・過干渉）
- 3) 両親の不和・離婚にともなう情緒不安定
- 4) 父母ともに自分の職業に関心を集中させ、子の相談役にならない（無関心と放任）

### 3. 社会関係上の問題

- 1) 性問題を含めてなにごとでも話しあえる親友がない（競争心が強いので、ありのままの自分を開示できない）
- 2) 教師・上司など年長者との交り方が上手にできない（効果的なコミュニケーション技能の未習熟）

3) intimacy の能力の未発達のため、グループ活動が効果的に行えない。

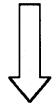
4) 社会が与える青少年像が不明確である（大人扱いにしたり子ども扱いにしたりする）

5) いわゆる青年文化との同一化が強くと、大人の価値観を拒否する

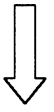
6) 登校拒否、就職拒否、転職、結婚や出産の拒否

上記の諸問題に対応しているのは、教育機関、相談機関、保護機関、医療保健機関であるが、包括性と統合性にかけている。共通の基礎的な研修（思春期・青年期についての広義の健康とその障害に関する知識・対応技能）を受けた専門職が必要である。また、各領域の相互支援関係の仕組みを早期に確立することが求められていると考える。

なお、これに関する研究として、自己同一性尺度、(selfidentity scale) の作製についての予備的研究を行った。文科系大学生 141 名 (18~21 歳) にこの尺度調査を実施したところ、女子の方が男子よりも、自己同一性がいっそうはっきりしており、性役割の受容が認められた。



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



現在の青少年が直面している心理面の諸問題には、個人的な問題、家族関係上の問題、学校や職場での人間関係上の問題がある。